

次号予告

- 特集 臨床教育の目標と指導計画
 臨床教育の位置づけと学校の役割 (OT の立場から)
府中リハ専門学校 杉原素子
 臨床教育の目標と指導計画 (PT の立場から)
甲州中央温泉病院 藤本欽也
 座談会「臨床教育の現状」
 学校の立場から
田村美枝子・橋元 隆・金子 翼・菊池恵美子・(司会)奈良 勲
 臨床教育の立場から
菊地延子・紀伊克昌・谷合義旦・椎名喜美子・(司会)富岡詔子
 とびら 障害の受容と地域リハビリテーション.....鹿教湯病院 望月秀郎
 講座 統計学 4. 3つの時刻に測定した最小血圧の比較
 (分散分析法入門).....横浜市立大学 杉田暉道
 老人 2. 老人の精神衛生.....独協医大 大森健一
 プログレス 高血圧発生病因子についての新知見.....島根医大 家森幸男
 リハビリテーション・インフォメーション<兵庫県>
兵庫リハセンター 山下隆昭・他
 あんてな 統合教育の成果.....学芸大学 山口 薫
 付・第17回日本理学療法士学会・第16回日本作業療法学会プログラム

編集後記

いよいよ春、厳しかった冬ほど待ち遠しい。今年も数多くの OT・PT がこの季節に巣立つ。彼らのエネルギーを十二分に発揮出来る施設、病院に就けたらうか。

さて、今月号の特集は、成人の脳性麻痺をとりあげた。超早期よりの治療も理解され全国的にその網の目が広げられ、さらにその一つ一つの目が細かさを増しつつある現在、成長後の医学的二次障害、結婚、就労、運転免許について諸氏に執筆をお願いした。

「脳性麻痺による二次障害」を山形氏に幅広い経験から平易に述べていただき、幕内氏には、コミニティケアとしての「脳性麻痺者通所作業活動における作業療法士の役割」、藤本氏には重度授産施設の立場から「脳性麻痺者の就労の実態」をそれぞれ社会活動、就労の面からお書きいただいた。また野崎氏からは、ある一つのケースを通して脳性麻痺者の結婚問題に触れていただいた。いずれの執筆者も肌でぶつかっている体験から得たものをお書きいただ

き、何か治療者の温かみを覚える特集となった。

常々思っていることは、この雑誌は、読者の皆様と共にあってこそ親しまれより役立つのではないかということである。本誌がリハビリテーション分野で、日々治療を支えている日本全国に散在した同志の議論の交換場所であってほしい。OT・PT が治療学として成り立つには、それら一つ一つの実績を地道に積み上げてゆくのが本道であろう。一つの問題を科学としてとり上げるには、客観性を持った立証をしなければならぬ。OT・PT の治療効果は単純には言い表わせないもどかしさがある。また大半の OT・PT はこれらの論証法について教育を受けていないことも遠因している。しかし進歩のない所に明日はない。歯をくいしばって前進しよう。我々を求める患者のために、OT・PT の仲間のために、そして自分自身のためにも。

(大喜多 潤)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長
 五 味 重 春
埼玉県生活福祉部
 砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長
 津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
 水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
 (五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
 荻 島 秀 男
リハビリテーションペ
イン(痛み)クリニック
 大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター
 寺 山 久美子
都心身障害者センター
 富 岡 詔 子
山梨下部病院
 奈 良 勲
金沢大学医療技術短大
 福 屋 靖 子
筑波大学
 松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己
池 田 俊 雄
伊 東 元
宇都宮 初 夫
大 丸 幸
金 子 翼
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
木 村 信 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 馨
嶋 田 智 明
鈴 木 明 子
関 昌 家
高 橋 正 明
中 屋 久 長
橋 元 隆
藤 沢 しげ子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
 (担当 細田・西塚)